国労と動労に感謝

全修協

ストでも運転

修学旅行の輸送配慮で

国鉄、電々職員のベアに関する仲裁裁定の完全実施を要求して九月二十九、三十日に予定されていた公労協の統一ストは、労働側が政府の収拾案を受け入れたことによって中止となった。そのため修学旅行列車は予定通り運行され、児童生徒、学校をほじめ父兄は安堵した。

しかし国労、動労はストが決行されても修学旅行と災害地向け緊急輸送物資・生鮮食料品だけは完全運転する方針を打ち出しておりそのため修学旅行については学校現場から好感をもって迎えられていた。

この措置に対して全修協では九月三十日、小室三夫朗事務局長、嶋津佃郎調査研究部長、早川泰雄広報部長は国鉄労働組合に美見和甫中央執行副委員長を、また、国鉄動力車労働組合に隠元寅教中央執行副委員長と柳沢三四二総務部長をそれぞれ訪ねて謝辞を述べた。

国労の美見中央執行副委員長は「皆さまにご迷惑をおかけしたことを深くおわびしたい。私たちは修学旅行、生鮮食品などはストから除外し運行を予定していた。一般乗客には迷惑をかけてもよいということではなく、あくまで特殊のケースとして取り扱ったことをご承知願いたい。しかしストが回避されたことはうれしい」と語りまた、動労の柳沢総務部長は「組合のほうからうかがっておわびしなければならぬのに、わざわざお出掛けになり恐縮している。動労が修学旅行を優先させたのは、子どもたちの夢をこわさぬためであった。われわれの意をくみとっていただきたい」と述べた。

なお国鉄本社の調べによるとスト決行の場合、運転を予定した修学旅行列車は、新幹線三十本（混乗を含む）在来線二十四本で、その人員は約三万人であった。これは連合をを主体にした集約列車だけで小口扱いは含まれていない。

【写真】国労・動労に感謝を述べる全修協事務局長と㊤の右側は美見国労中央執行副委員長。㊦の左側は柳沢動労総務部長。

百年迎えた時計台

札幌市で記念事業

【札幌】札幌市では五十三年十月十六日に百歳を迎える時計台の保存と札幌農学校演武場全館の「札幌歴史館」化に伴う百年記念事業案をまとめた。それによると国の重要文化財指定の旧札幌農学校演武場はいま屋根の修理と塗装を実施中だが、以後は庭の整備を行い、五十二年度には植樹と芝生を作り、外部から見えるよう現在の石塀を徹去し、鉄柵を設ける。

時計台全体を小博物館とし、札幌の歴史を写真、パネルで紹介するほか資料も展示する。

福井彰二氏

九月三十日午後八時、肝臓ガンのため東京・文京区の順天堂医院で死去、六十五歳。葬儀は十月二日午後二時から市川市国府台町の即随寺で執り行われた。昭和三十四年から同四十四年まで全修協の研修部長をつとめ教職員研修旅行の発展に寄与した。

明るく清潔な都アテネ

八月四日、懐しのケニアを後に同じアフリカながらガラリと空気の異なる暑いエジプトの首都カイロに着き、三日滞在しました。

エジプトといっても、エジプト人はアラブ人に征服され、今では影を消しているようです。カイロは猛暑の下をアラブ人がひしめき合い、あらゆる種類の車（なかにはロバが自動車を引張っていくのをみかけた）が絶えずピイピイ警笛を鳴らし続け、アメリカをはじめ世界各国の親光客がおしかけている異常な雑踏の街です。

ケニアでの私たちのジープの運転に当った親愛なる黒人キハラ氏が話したように〝カイロはプーア（貧しい）などころで、アラブ人がうようよしている、といった通りの光景でした。無数の自動車、トラック、観光バスは人々のごった返している街中を走るので、車の警笛は鳴りやまず、ピイピイ、ブーブー、ガヤガヤ、ムンムンという形容しかありません。

私は約十二年前の二九六四年、一度カイロを訪れたときにも感じたことですが、カイロにしてもローマにしても、生産よりも祖先の遺産（といっても前述のようにエジプトはアラブ人が征服したわけですが）で、飯を食っている国は大体において観光客めあてのポンピキ、スリ、売春、ヤミドル買い詐欺的商売、雲助のような高い料金をふっかける運転手などなど、貧困と悪徳でみちているように思われました。

ただしカイロの次のアテネやローマと、同じイタリーでもフイレンチェなどは別で、アテネは清潔な古代の明るい都でした。（ただし軍事政権支配は終ったといっても民衆生活が実際どうなっているかはわからない）フイレンチェは最も清潔のように感ぜられ、タクシーもメーターをよく守って、ふっかけたりせず、ローマとは大変なちがいでした。

カイロの次のギリシャでは地中海の島々を回わって海水浴など楽しみました。

ローマは古代の遺跡にみちた（世界でも一番と思われる）美しい古代都市で、フォロ ロマーノ遺跡群、有名なスペイン階段、トレビの泉、初期キリスト教徒のひそかな集会のあった地下何層にもわたるカタコンゴ（墓穴）、キリスト教徒迫害の血なまぐさいコロッセオ（円形劇場）、巨大なカラカラの浴場など、何日かかっても見つくせません。ただイタリーは現在〝破産〟状態にもひとしい不況下にあるようで、通貨（リラ）は毎日変動し下がっているようです。

八月九日のニュース・ウィーク誌の表紙は田中角栄前首相の顔写真が大きく出ていました。カイロでもアテネでもローマでも、私たちの訪れた世界の至るところで、この油ぎった顔写真をみかけました。（あるキオスク＝売店＝で八枚も田中の顔写真を並べていました）ケニアの運転手も田中のスキャンダルを知っていたし、ナイロビからエチオピアのアジス・アベバを経てカイロへ向う機上で隣り合わせたエチオピア人に試みに「田中のことを知っているか」とたずねてみたところ、よく知っているということでした。日本の高度成長の悪臭が世界をおおっているといっても過言ではないようです。

ところでケニアではともかく、せめてカイロに行ったら日本の情報がつかめると思って、八月五日私たち夫妻は猛暑の中を英語、フランス語などでたずねたずねたすえ、やっとたどりついた日本領事館で日本からの新聞をみようとしましたが、なんと一番新しい新聞が、私たちが日本を出発した七月二十九日の前の七月二十五、六日ごろであったのにはがっかりしました。

私たちの羽田出発の二日前に田中角栄逮捕があり、その後ケニアでは田中の運転手の死亡を伝えた英字新聞をみましたが、それ以後二週間にもなるのにまだ進展状況がわかりません。ローマの日本食堂の日本人従業員も、日本の活字で新聞でも週刊誌でも読むものがなくて困っていると言っていました。在外公館のこの面での改善努力が必要のようです。

いま私たちの機は、パリのシャル・ド・ゴール空港に着きました。一行の皆さんは、はじめのうちは強行軍で多少まいった人々もありましたが、いますっかり元気を回復しています。

ともかくも楽しく、かつ世界の国々や人々を知り、日本を再検討する上で有意義な旅行でした。このあと私たちはパリ（二日）ロンドン（二日）を経て八月十八日に帰国します。八月十三日、パリにて。＝おわり（日教組顧問弁護士）

古代うけつぐローマ

アフリカとアテネ・ローマ・パリの旅

㊦

森川　金寿

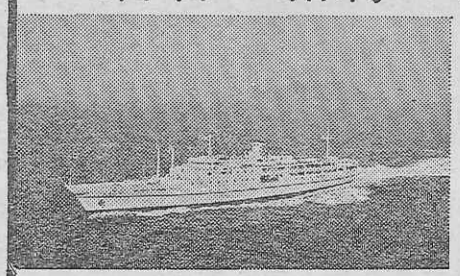
全国各地
小中高校
全90種

旅のしおり

■御校のコースにマッチした「しおり」が用意してあります。見本無料呈。
■北海道から九州まで，小学校から高校まで，あらゆる種別を用意。
■見学地図の裏に御校の「旅行要項」をお刷りしています。資料呈。
■修学旅行の資料ならなんでもおそろえします。ご照会ください。

修学旅行図書・資料出版　〒601 京都市南区西九条鳥居口町5
株式会社
教材研究所
(京都駅新幹線口の南西)
電話・代表075-681-1591,2,3,4
振替・京都2539

若者・紺青の海・純白の船



貸切専用純客船
ふ　じ　(3,000トン)
にほん丸　(3,000トン)

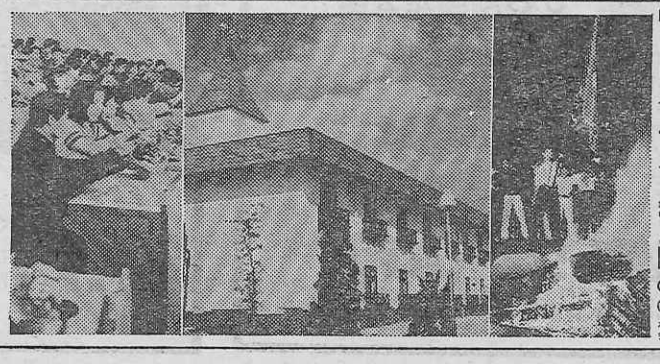
・スケジュール・コースはご自由に
・旅客定員 1,800名
・サロン・休憩室・医務室完備
・船内でのグループ活動・学習に最適
・全室エアコン完備
・一般客との混乗なし

Ⓐ大島運輸株式会社東京支店　東京都中央区日本橋通1－3－11 浅野ビル9F　TEL 03-273-8911

チロル風のホテルは仲良し8人が一緒です。

集団生活の安全管理と宿泊の生徒さんの自主管理の両面から入念に設計された《スズカビレッジ》
●全館冷暖房完備
●防火優秀ホテルとして昭47.7消防庁長官賞受賞

2人で1台実物のエンジンを分解・組立てる
250名収容のテクニカルホールの生きた科学教育。
空へ、水へ、緑の中へ…自分でハンドルを握る〝ゆうえんち〟。
国際レーシングコースを走るレーサー気分も……
そして陽の落ちた広場でファイアーストームを囲んで
校歌を歌うひととき――
チロル風ビレッジの一夜、翌朝伊勢湾から昇る朝日も
忘れがたいもの、どれを取っても
学生生活を刻んだキラリと光るひとコマです。



昨年一年間で11万人もの学生さんが
この思い出深い修学旅行を体験しています
「人と科学と自然の接点」
今年の修学旅行こそスズカを加えた
《新近畿ルート》をご検討ください。
スズカから京・奈良・伊勢・志摩へも2時間の距離
未来と過去を結ぶ理想の修学旅行コースです。

新鹿国定公園 国鉄国道指定地
スズカランド
鈴鹿サーキット
三重県鈴鹿市稲生町
電話＝0593〈78〉1111

株式会社ホンダランド
本社：東京都中央区八重洲5-5 ☎03〈274〉5821
大阪営業所：大阪市北区芝田町57-5 ☎06〈372〉1526

石仏への誘い

魔除けと豊穣の祈り

①…蛯原　徳夫

野路を歩いて、ふと、石仏に出会うことがある。三つ又の辻の、家の粗壁を背に、人待ち顔である。あるいは、道から少しはいった、ほの暗い雑木林のはずれに、ひっそりと立ちつくす。合掌するもの、笏しゃくをささげるもの、一体が手を握り合うもの、その尊容はさまざまだが、たたずんで見つめていると、郷愁がわきあがりいとおしく、かなしく、なつかしい。いずれも、なんらかの祈りをこめて造立されたものであり、秘められたその思念が、なにとも分からずに、痛いほど胸にせまることもある。野仏は人びとの心情の表象であり、まさに庶民生活のシンボルである。

路傍の石仏は、ただながめるだけでもなつかしいが、もしそれぞれがなんであり、なにを意味し、なにを表わすかなど、くわしいことが分かったなら、さらにいっそう関心や興味をひくことであろう。全国的に散在する石仏の種類は、じじつ無数ともいえるほどで、それを挙げつくすことは容易でないが、いまここでは、関東地方に圧倒的に多い、道祖神と庚申塔そのほかについて述べてみたい。

道祖神といえば、その字づらから、道の神様、旅の守護神と考えられやすいが、事実はそうでなく、道祖神とは中国からの借字にすぎず、わが国では古くはそう書いてサエノカミ（塞えの神）と読ませていた。この神名の意味については諸説があり、いちがいに断定はできないとしても、ふつうは「さえぎる神」とし、疫病や悪霊が村に侵入するのを防ぐ力があると解せられ、当初は村の入口に建立された。しかしその後、村の膨張や道の改修などの理由で、その位置がすっかり移ってしまっている。

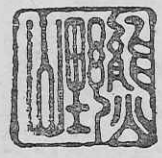
道祖神は一定の形式をもたず、地方によってさまざまである。たとえば松本を中心とする信州地方では、男女二神の双体像で、多くは男神が盃を持ち、女神が酒器（徳利、瓶子、ひさご）をささげていて、いっぱんに祝言像とよばれるものである。この双体型は上州の北部にも及び、また神奈川県には僧形の双体立像のものが見られる。さらに伊豆半島には丸彫りの単身像が多く、手に笏や宝珠を持ったり、あるいは合掌したりする。ところが甲州地方では、円形の自然石を道祖神として祀る例が多く、それも大小さまざまであり、なかには丸石に道祖神の文字をはっきり刻んだものもある。

道祖神としておもしろいことは、それに性神としてのすがたも見うけられることである。セックスは自然の生産力の源として、作物の豊饒への祈念の対象となる。農村の作神信仰が、道祖神信仰に習合されたのではないかとも思われる。さきの祝言像などもそのあらわれと見られるが、もっとすすんで、男女和合のすがたを端的に示すものも数多い。二体が正面を向かずに横むきに相対するもの、互いに肩を抱き合い、手を固く握り合うもの、頬を寄せ合うもの、互いに乳や股のあたりに手をやるもの、横向きにしっかり抱擁し合うもの、さては接吻するものさえある。こうした種類の像は、どういうわけか、とくに上州の榛名・赤城の山麓に多い。私がとりわけ忘れられないのは、群馬県勢多郡宮城村の寺の庭さきで見た、頬を寄せ合った双体像（写真）である。袖の長い衣を着た男女（神）が、半ば横を向き、互いに肩を抱き手を握り合うが、珍しいことに両人ともお高祖頭巾をかぶっていた。女は口を頭巾でおおい、やや伏目がちでいるのを、男が頬を寄せていたわるように見やっている。そのすがたはそっくり歌舞伎の道行きであった。彫りもよく、ととのった姿態は、しみじみした情感をただよわせている。この像には寛政五年の銘があった。今日までのところ、彫像のある道祖神は、すべて江戸期にはいってからのものである。＝つづく（聖徳学園短大教授・文学博士＝写真も）

頬寄せ道祖神（群馬県宮城村・金剛院）

石手寺（松山市・道後）

四国遍路第五十一番の札所で、奈良朝時代の創建といわれる真言宗の寺。はじめは安養寺といい、そののち寛永年間に再興された。仁王門は国宝。重要文化財には本堂、三重塔、護摩堂、五輪塔、鐘楼銅鐘などがある。鬼子母神のほとらには石ころがたくさん積みあげられている。願いごとがかなえば石を置くという民間信仰がいまでも生きている。境内には博物館もある。道後湯の町、交通のはげしい街の一角に、わずかに静けさが残されている。



石手寺

唐招提寺（奈良市・五条町）

聖武天皇の勅願で天平宝字三年（七五九）に唐僧鑑真（六八八―七六三）が建立したもので、わが国ではじめての律宗である。学僧は三千名を算えたというが、中世には衰え、鎌倉時代に将軍家の寄進で改修、金堂、講堂、校倉など創建当時そのままの姿を残している。金堂の内陣には国宝の仏像が安置されておりこれらは鑑真に従ってきた唐の工人の作という。

唐招提寺

集印帖

友好訪華団の記録

全修協主催

人間の自然改造

黄土高原は田畑に

新井福之助

＜7＞

西安大城壁の西門から西方へ通じる舗装道路の沿道には、ポプラやヤナギなどの街路樹が整然と植えられ、人民公社の農地は一面の棉・水瓜・トウモロコシ畑である。灌漑用水路は縦横にめぐらされている。耕地の中の納屋や民家の土壁などには「千年の大計」「農業学大寨」の標示がいたるところで見うけられた。

乾陵は海抜一〇四九㍍の梁山に造立され、墓前には多くの石像がむなしく立ちならんでいる。周囲の黄土高原は整然と梯田化し、悠々たる甘西・甘粛の無限の大地が人間による自然改造の力によって生産の力を大きく生みだそうとしている社会主義的生産関係の景観は、かつての唐皇室の偉大なる権力の遺産である大陵墓の造成にみられた封建時代の労働人民の技術の結晶とともに、中国人民の政治・経済・文化を研究する好材料になっている。（永泰公主墓内部には彩色壁画・唐三彩・石槨彫刻など残存）

乾陵から咸陽にかけての黄土高原では、随所で厚い黄土を直角に削り落して、穴居住居や備蓄庫を造成する作業が女子も多く参加して行われている光景を車窓から観察した。

西安の郊村では、日没で暗くなった耕地の隅にテントを張り、裸電球の下で約二〇人近くの男女農民が、収穫物の選別作業をしている姿をみて、新しい国づくりにいそしむ中国人民の希望に満ちたたくましい活力が生き生きしていることを感じさせられた。

西安ばかりでなく、北京・洛陽・上海各都市でも共通だが、市街地内の民家は室内電灯も暗く、夏の夜には多くの民衆がアンペラを歩道に敷いて涼を求めている光景をみた。明るい日本の夜景とは対照的である。

新井福之助氏

早朝に、東門城壁へ通じる東新街（かつて吉備真備・阿倍仲麻呂ら日本の遣唐使が通った）の大通りにでてみる。そこの小吃店（飲食店）では民衆が牛乳（一㍑約百円）の配給を受けるため長い列をつくっている。渭水盆地では乳牛飼育が少なく、牛乳は貴重な飲料のようである。

通りの四つ辻の一角には「蘇菜代銷一店」の標示をした野菜市が歩道いっぱいにまで品物をひろげ販売している。テント張りの支柱には「服務員心得」なる小片がはりつけられ、市商人も公務員としての身分であることが明瞭にわかる。南瓜・東瓜をいから馬鈴薯・茄子（大きくて二三㌢㍍）にまじって西瓜（約一九〇円）が人気を呼んでいる。生水を飲まない中国では安価な貴重品といえよう。（イタリア各地でもよく見られる）

解放前からある古い民家（屋根にはサボテン自生）や囲郭の入口には「院落陣地牢占領」のはり紙がよくはられている。（プロレタリア独裁の家を永久に護れの意で文革以後の中国各地で普及）

街頭には一定の間隔で公衆電話・郵便筒や清潔箱（ゴミ入れ）が設置され、公衆の便宜に供され、老人・子どもたちによって街路の清掃奉仕が励行されているのでいたるところ清潔である。

掲示板には民衆に対する政治教育の徹底をはかるための批林批孔・毛主席による革命路線に対する絶対的賛護に加えて中日両国人民の友好・中日平和条約締結促進のスローガンが示されていた。

八月二十二日、収穫の多かった西安訪問を終えた筆者たちは、十一時出発の列車で西安駅を出発した。上海行直快（急行）列車には筆者たちのために特別に寝台車（四人一組の軟臥車）で増結された。

機関車はSL（動力五輪のFD型）二重連で、日本ではめったに見られない。この機関車は蘭州―西安―三門峡間を運行し、それ以外は気動車にきりかえている。中国の汽車に乗るのはこの時が初めてであったが、客車は清潔で中国石花の装飾もあり、レールが広軌のため座席や通路の幅もゆったりしており、快適な旅であった。ただ車内の温度は三六度と暑い。

列車販売員（女子も含む）が、湯茶のサービスをしたり、筆者の質問（筆談で）に答えて車窓の景観を説明してくれる。泰嶺山脈の「耕して天に至る」という、まさに土にしがみつき、土とたたかう農民の恐ろしいほどの執念を見せつけてくれる景観が眼にとびこんでくる。

三門峡西駅で機関車取替えのため停車、この駅はかつて三門峡ダム造成工事の基地となった駅である。（ダムはついに望見できなかった）発車直後、有名な函谷関（湖中の小島化）も寸時のうちに通りすぎると、古来から「中原」と呼ばれていた黄河の中流域地方の景観に接してくる。

ここは黄河の恵みをうけて、古代文化が栄えたが、黄河の氾濫も多く、この地域の人民は周末戦国の世から、近年の中日戦争・国共内戦にいたるまで戦乱の舞台となり、中国人民の多くに苦闘をもたらした地域である。今はすっかり解放され、山や丘陵は緑化、耕地には灌漑用水路が拡張されている。桐・ポプラの街路樹はいずれも解放後の植林である。

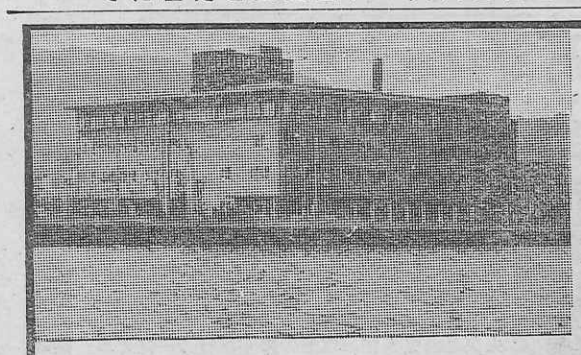
西安から急行列車で約八時間、筆者たちは日没に近い夕方七時に洛陽駅に到着、下車した。洛陽駅は解放後に近代的都市計画化された新市街にあり、モミジバスズカケの街路樹の大木の並木が美しい。随所に建設中の四階建てアパート（練瓦づくり）の群がみられる。

洛陽は河南省西北部に位置し、市内には洛河の大きな流れに三つの河川が流入している。ここは原始社会（五〇―六〇万年前＝BC二一世紀）藍田猿人の遺跡からはじまってBC七七〇年の周の東遷で都を洛邑（当時の地名）にうつして以来、後漢・曹晋・西晋・北魏・隋・唐・後梁・後唐・後晋と九王朝の都であった。

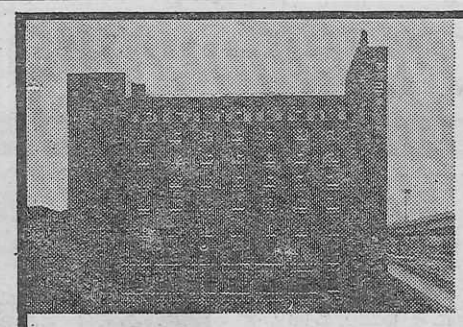
唐代には長安につぐ第二の都とされていた。かつて唐の詩人劉廷芝（六五一―？）によって「宋陽城東、桃李の花。年々歳々花相似たり、歳々年々人同じからず」と詠まれた栄光の都も、宋（一〇世紀中頃）以後から衰亡し、解放直前は産業労働者わずかに三〇〇人の小炭坑があったにすぎない。人口九万の小都市であった。

解放後、古い都・洛陽は生まれかわった。一九五四年には薬品工業や建設機械工場が導入され、五九年には中国屈指のトラクター工業の東方紅工場が建設された。これらの工場では間断なく生産が促進し、洛陽での生産は四〇〇〇種類におよび、解放後に比して実に三五六倍（一九七四年）に達している。（鷗友学園女子高校教諭）＝つづく。

西安の紡績工場を見学する



いらっしゃいませ
びわ湖国定公園
近江路の旅へ
収容　600名様
浴場　150名様
設備　全館冷暖房
防災　諸設備完備
駐車場　バス20台
政府登録
国際観光旅館　びわ湖ツーリスト・ホテル
大津市におの浜3丁目2―25　電話　大津(0775)24―2321



東京コマ旅行会館は
第8回優秀防火建築表彰で
建設大臣賞を受賞いたしました。
東京でのお泊りは
安全設備を誇る当会館へ。
東京タワー、国会議事堂を間近かに望む東京の中心にあり、8階建の近代ビルで、修学旅行の皆様に、より有意義な旅行をしていただくために、清潔で低廉に、しかも最新の設備をほどこした全館和室の観光旅館です。
ホテル〈全館和室〉
東京都港区六本木1丁目7番地
TEL (03)585―1046(代表)
東京　コマ旅行会館